

吉前町の宝物 道の有形文化財に指定

木造十二面観音立像

一八六〇年(万延元年)に創立された吉前町内で最古の寺院、三豊の金宝院(廃院)が所蔵していた木造十二面観音立像が、この道の有形文化財に指定された。

鎌倉時代に作られた仏像といわれるが、この時期の仏像は道内にはあまりなく、仏教史を採る貴重な資料として関係者から注目されている。



この夏、役場庁舎(吉前)一般公開する予定。

仏像は高さ約六〇センチで頭頂に菩薩の顔や怒った顔などがある。着衣部分には、木像に金箔を張り付ける裁金という技法で模様が付けられている。

通常十二面観音像は頭頂に十二面あるが、この仏像は二面が欠落している。



仏像を調査した専門家は報告の中で、保存状況は極めて良好、仏教寺院が地域に根付くために仏像を本州に求めた一例で北海道仏教史の資料として貴重だと評価している。

仏像は同院の廃院後、一九九六年に町に寄贈された。

仏像を調査した専門家は報告の中で、保存状況は極めて良好、仏教寺院が地域に根付くために仏像を本州に求めた一例で北海道仏教史の資料として貴重だと評価している。

紙芝居が完成

ひまわりの事件のDVDも

ひまわりの事件の史実を子供たちにわかりやすく伝えるようと、ひまわり保存会と郷土史研究会、公民館が共同制作(吉前)ひまわり事件紙芝居編集委員会)として紙芝居が完成した。

また、この紙芝居を振り込んだDVDもできあがり、去る三月二十日午後七時から公民館で上映会と、ひまわり少年団の子供たちによる獅子舞が披露され、観覧者から大きな拍手を受けた。

紙芝居の絵は十六枚で、昨年十月から製作に取り組んできた。

編集委員会は、小学校の三年生を対象としてわかりやすく作成した。まずは子供たちに史実を知ってもらい、後世に伝えること、ついでに人間と動物の共存のあり方を考えるきっかけになれば」と話している。

紙芝居は六組作り、道立図書館、留萌市立図書館、町と友好関係を結ぶ三重



県桑名市図書館の三カ所に寄贈し、残り三組を学校などに貸し出す。

DVDは二十枚で、町内の中学校計四校と留萌管内の各南町村の図書館、道教委などに贈呈した。

なおDVDを二枚千円で吉前温泉ふわっとで販売している。

DVD上映会と紙芝居の貸し出しの問い合わせは公民館(0114-66-2200)。

昔の繁栄をのびせる

江戸後期の浮世師が描く

吉前神社の大絵馬

ご先祖が吉前町と関係がある函館市在住の関尚彦さんが昨夏来町した折、吉前神社の社殿にかかげある三枚の大絵馬を拝観し、北の絵馬(創刊号)に寄稿されている。文中を要約すると、吉前神社は天明六年(一八二六年)奥蝦夷地吉前の支配人が当地方開拓の際に創建、吉前郡の総鎮守として奉斎してきたという由緒ある神社のこと。

総会と放談会

6月13日、文化財専門委員も出席、郷土史研究会が、六月十三日(水)午後六時半から、古代の里のアイヌの子で開催された。開催前に郷土資料館でひまわり事件の紙芝居DVDを観賞。

郷土史研究会員や町の文化財専門委員、公民館職員など十人が出席、事業計画、予算などを審議のあと放談会に移り、今後吉前町の歴史をしっかりと後世に残すため、尚層研究に努力することを確認し合った。なお、文化財専門委員の石川博美さん、佐武正幸さん、鎌田節雄さんの三人が郷土史研究会に加入されました。

石炭展 開催

炭鉱の街を繁栄させた人々の生活を支えた石炭、そしてエネルギー革命が起きることから衰退した石炭、かつて吉前町にも小川地区に「吉前炭鉱」が(露天掘り)あった。いまは懐かしい「石炭の特別展」を開催します。ルンペンストーブやタコストーブ、ガスストーブなど、ストーブにまつわる話も面白い。どうぞたくさんのお来館をお待ちしております。

開催時期や内容等については、後日公民館よりお知らせいたします。

郷土資料館 指導員のメモから

●古代の里への看板が明るく見やすくなりました。資料館を見学されたあとは、どうぞ古代の里へゴミを捨てないようにお願いします。

